

SSKS ほっと

第14号

1995. 10. 13発行

定価30円

発行所 世田谷区砧六二六二一
身体障害者団体定期刊行物協会
編集人連絡先 八王子市島四一四一一 明野ビル三〇号
電話 F・文 〇四六二七九四五
郵便振替 〇八〇七六四六 〇三六八五
代表 多田 道夫

「ほっとスペース八王子」は、総会を終えて新たな出発を開始しています。たとえば、毎日一日のスケジュールの中に討論会や反省会を取り入れるなど、過し方を工夫しています。会の仲間の気持ちも、総会を無事にやり通せたことで自信を深め、「ほっとスペース八王子」本来の趣旨に取り組もうというところになっていきます。食事会をする時にも、議案書に盛り込まれたように、みんなで材料を予算に見合った形で買い、力を合わせて作る、というように変わってきています。以前の「ほっとスペース

ス八王子」とは一味違った雰囲気になっていきます。自発的に清掃したり、帳簿をつけたり、反省会を提案したりする人が出てきています。そのあたりは評価してよい点だと思います。

ところで、その中でも問題点はいろいろとあります。たとえば、本格的に退院促進活動や訪問面会活動でしどしやりたいのですが、そのためには代表を初め会員の意識の変革が必要です。私たちの方から病院や地域に出て行くための体制作り、人

現状と課題

以剪「ほっとスペース八王子」

味導「雰囲気」

さらにどうしたら労働者・市民と結びつ

要です。どうして差別が生まれたのか、どうしたら差別をなくせるか、理論的な面での私たちの向上も必要です。どうして差別が生まれたのか、どうしたら差別をなくせるか、1
作りを考えて行かねばなりません。また、総会でも明らかにしました。が、今の事務所では手狭となり新しい広い事務所を借りることになりましたが、理解ある不動産屋さんはいらっしゃるのですが、大家さんの無理解が壁となつていきます。
理

いていけるのか。そうした理論面での強化、向上も合わせて強め、「ほっとスペース八王子」を本格的に発展させて行きたいと考えています。

「ほっとスペース八王子」第一回総会開かれる



「ほっとスペース八王子」開所以来初めての総会が開かれた。参加者五〇

49名の参加で第1回総会が開かれる（95年10月7日）

名。福祉労働者、学生・主婦ボランティア、八王子の「わかくさ」、世田谷の「ともにいきり開く会」「がちゃばん」、三多摩労組交流センター、三多摩合同労働組合、大学の教員、新聞記者や不動産屋さんも参加。

やる気満々の高倉さんも

議長に立候補

カラオケも大得意の若き北原さんの司会のもと総会は始まりました。代表のあいさつに続

き、世話人の労組書記長の樋口和幸さん、八王子市市議で顧問でもある大日向宏さん（甥の結婚式のためメッセージ）、最後に世田谷の「ともに切り開く会」の三好さんなどの来賓のあ

いさつ。

そして、総会の開会です。まず議長の出です。さわやかな司会の進行で円滑に進むか見えましたが、議長の選出であのしつかりものの高倉さんが立候補の意志をつぶやきました。「あれっ、予定してなかった」と司会も困り気味。でも、高倉さんも今回は断念して、運営委員会が用意した議長の高橋さんが選出されました。本当は選挙して選出しなければならなかったのに。この紙面を借りましておわびします。

さて、カラオケと競馬が大好きな高橋さんの進行のもと議事が始まりました。第一号議案は代表の多田氏から、「ほっとスペース八王子」事務所の開所前から開所後、そして現在までの経過報告と、

（三頁に続く）



総会後の交流会(95年10月7日浅川市民センター)

（二頁からの続き）

総括を提起しまし

た。「精神障害者」当事者の運動として「ほっとスペース八王子」の運

動を進めて評価されるべき点、また生じたさまざまなまだ克服できていない数多くの問題点を示し、今後これを克服していく決意を述べました。第2議案の活動方針で事務局長の堀部氏から「精神病者」ベースであせらず、のんびりと第1号議案で示された課題を克服していく道筋を明らかにしました。1、2号議案とも活発な討議が進み、時間が足りないくらいでした。

ヤングの桃山氏元氣よく、女性部の多岐川さんはしとやかに提起

また、「ヤングほっとスペース」からは桃山桃源氏、「ほっとスペース八王子」女性部からは多岐川裕子氏の総括提案と活動方針が提起さ

れ、それぞれの分野でも楽しく活発に、力強く活動が進んでいることがうかがわれる内容でした。続いて、3号議案（会則）、4号議案（開所からの仮決算および総会後の活動予算案）、人事案が承認されました。会計監査には帳簿のつけ方を教えてもらっている三多摩合同労組委員長の植松恵樹氏になってもらって、厳格な財政管理を行っていくことも承認されました。

ただ、時間の都合で途中から早口になってしまったことは、議事運営する側の不手際として反省しています。また、そのことも結び付くのですが、「視覚障害者」にとつて時間がないからと言って議案書を要旨による提起にすることがどんなに苦痛なことかを

（三頁からの続き）

総会後の交流会も大盛況

指摘され、反省しています。総会の後、三多摩労組交流センターの労働者の皆さんの協力で、学校給食調理の労働者のメニューで、普段あまりお目にかかれないめずらしいメニューでおいしい料理が次々と出てきてもう大騒ぎ。少しアルコールも入った所で、参加者全員の自己紹介をかねた交流会。討議時間が少なかったこともあって、交流会も予定の時間には終わりにそうない大盛況ぶりでした。

「精神病者」を差別し、抑圧し、迫害する社会から「精神病者」を解放するためには他でもない

い「精神病者」自身の手で行うしかありません。行政にお願いしたり、親や兄弟、ボランティアなど「健常者」に頼むこともできません。

確かにそれはつらいことです。で

も、私たち自身が自分の手でつかむたたかいの中ではなく、自分自身への信頼と自信、人間としての誇りを取り戻すことはできないのです。

き始めていました。

九月二九日（金）は待ちに待った、三多摩地区精神障害者スポーツ

交流祭の日でした。

秋の風がほのかに感

ずる東中神の多摩スポーツ会場では行われました。さまざまなグループの中、

「ほっとスペース八王子」の仲間は佐野雄介君も合わせて十七人。

万全たる

（五頁に続く）

盛り上がった応援、試合（鬼のパンツ軍団）

9月29日待ちに待った、三多摩地区精神障害者スポーツ交流祭

業月 若菜



第3位授賞を牽引したAチーム1グループ

試合会場に入った時から「ほっとスペース八王子」のみんなはもう鬼のパンツをは



（四頁からの続き） 格好で他のグループに負けを取らない応援で、盛り上がり過ぎるほど、「ほっとスペース八

王子」は目立っていたように思いました。鬼のパンツの案はこの葉月若葉が出しましたが、「デッテデレツ

テ」を含めて、仕舞には顔も上げられないほど、強烈な熱声が体育館内に響き渡っていました。

三多摩各地のデイケアの仲間たちとスポーツでの交流（95年9月29日昭島市・東京都立総合体育館）

試合の方は、Aチーム、Bチームに分かれそれぞれ精一杯他のチームと対戦したと思ってます。私は、Aチームでした。一回戦目は勝ちましたが、二回戦、三回戦と進むにつれ、状況は大幅に厳しくなってきました。レベル的には他のチームと同じだったようですが、細かなミスが目立ち



第三位を授賞してのガッツポーズ

くやしかったです。しかし、みんなの頑張りとお応援で、三位に入賞したことは本当に疲れましたが、すばらしい秋の日でした。

「ナイトー！！」一発 気合のマス釣り大会

桃山 桃源



九月の「ぽっとスペース八王子」は陣馬山麓の恩方町の「切通し」の「国際マス釣り場」に行ってきた。台風到来直前の日で、

台風到来の直前の恩方町のマス釣り場（95年9月16日）

最高でした。針に餌をくつつけているともう「釣れたーっ」という声があつて僕がブービー賞になるのは、もはや「お見通し」のようでした。結果は、なんと桃源は六匹も釣つてしまいました。他の人は郁（かおる）ちゃん六匹、名人加藤氏は傘もささずに三匹、私の弟子阿部恵

「切通し」が「風通し」の良いのは「お見通し」でした。僕は前回の「ぽっとスペース八王子」のマス釣り大会でブービー賞だっただけに、今回の釣り大会で恥じをかくのも「お見通し」でした。釣り堀の割には池が広く、雨が降っていなければ



慣れない手つきでマス釣り

美子は教えてもらい二匹、だいたいみんなの成績は桃源以外「見通し」通りでした。とにかく、浮がからまつて浮いたままなのに釣りをしている人がいて、大笑いの「釣り大会」でした。

マスを釣つて食べて、二千元なのはお手頃のお遊びです。「田駄じゃナイトウ」マス釣り大会の報告です

マスのつばやき

小池 郁

お池の中で待っていた

素敵なお方との出会いを

今年の秋の日、その出会いがあった

ほっとな、ほっとな出会いがあった

私は、仲間にも声をかけ

じつと、釣られるのを待った

ある方は二匹、ある方は三匹

四匹、五匹、六匹と……

釣られる度に大きな歓声

「わーっ！ 釣れたわ！」

「私も釣れたわよ！」と

私たちは喜んで、その食卓にのった

ジューズ、ビールが配られ

楽しい会話も飛び交い

本当は私もマスでなくて

「ほっと」の一員になりたいと思つたのよ

クレヨンの旅

葉月 若菜

保育園時代から友達のクレヨンは

よく動き回っていた

点から始り、奇妙なくねくねの線

お花、雲、太陽、女の子など

色々な絵を、色々なクレヨンで

描いた私

幼き日々の思い出をクレヨンは記してくれた

時は流れて 二〇歳過ぎの娘に遠慮し

クレヨンは押し入れに、かくれんぼ

きつと 暗闇の中で、こう言っているんだ

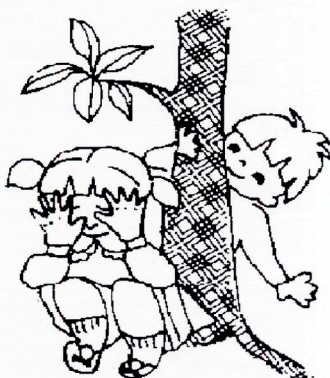
「君がお母さんになり、子供を育てる頃になったら

もう一度、ぼくを働かせてくれ」ってね

「ずいぶんお人好しのクレヨンなこと」と言えば

「ばか言っちゃいけない、ぼくの旅は

まだ終わっちゃいないんだ」ですって



マス釣の歌

桃源と郁あわせて十二匹

桃山 桃源

一同がマスを釣あげ大騒ぎ

マスを釣りほっとな仲間と秋の日に

小池 郁

私が働いて思ったこと

堀川 望

まずよい意味でも悪い意味でも社会性が身につくこと。それと行動的になった。だが、私には記憶障害（もの忘れ）があつてポカばかりしている。そのため、確認癖がより強くなつてしまった。

シャバの人たちとの談話も楽しい。一時は「病」者の世界と「健常」者の世界が違うので引き裂かれた感もあつたが、それも慣れた。



でも、薬の重さが強くつくづく「病」者が働くのは大変だと思つた。

労働とは責任を問われる。さいわい、私の仕事は掃除婦なので過剰な責任は負わされない。働けない人は

「ほっとスペース八王子」への思い

葉月 若菜

私は「ほっとスペース八王子」に関わるようになってまだ一年も経っていませんが、いままでさまざまな行事に参加してきました。新しい仲間が増え、幸せです。でも、仲間との付き合いの中でもめぐとやけんかなども経験しました。辛い悩みを抱えた仲間もたくさんいます。

働く必要はないと思う。精神的外傷が続く、働くことが恐怖の人もあるだろう。働きたい（自主的に）人は働けばよいし、まだ無理な人は働く必要はないと思う。ただ、孤独はいやされる。

私は幸

い両親も

健在で仕

事も順調

なので大

丈夫です

が、悩ん

でいる多

くの仲間の相談にのれたらと思いま

す。また、仲間との交流を深め、な

るべく仲良く末永く付き合い合えたら良

いと思います。



夫婦、親子で足りない所を 補い合いながら生き抜いています



鬼のパンツ軍団の奇抜な応援

田宮 登美子

私の独立は親から離れた時と言えましょう。親に捨てられ入院しました。

その入院を自分の責任だと思い込んだ主人と結婚し、「精神病者」同士足りない所は補いまた子供が両親の足りない所を補ってくれています。

「ヨインヨでなく、本音で言える『充実したスペース』」 栗本 欽一

「ぽつとスペースハ王子」に来て約六ヶ月が経ちました。病院とはまたひと味違った雰囲気の中のこのスペースは私の日々の中で非常に良い潤滑油となっています。毎日少しずつ違ったメンバーやボランティアの人々と会っていることが、私の一日を充実させてくれます。これからは、「ぽつとスペースハ王

子」の本来の主旨である病院への面会や、退院した人の今後の生活設計を手助けして行くことに、出来る範囲内で取り組んで行きたいと思っています。



三位入賞の記念撮影

総会議案書をお配りしています

第一回総会の議案書をお配りしています。当日ご参加できなかった賛助会員の皆様には、直接郵送でお送りしていますが、賛助会員ではありませんが、ご支援していただいている方々にも、ご希望の方にはお配り

しています。

ご希望の方は、「ぽっとスペース八王子」にご連絡ください。一部百円にてお配りします。

連絡先 ○四二六七九六四五

八王子市台町四一四四一一

明野ビル三〇一号

「ぽっとスペース八王子」

9月活動日誌（9・1～9・30）主なものだけ

- 9・1 八王子市社会福祉協議会訪問、八王子市障害者福祉課訪問、八王子市保護課訪問
Mさん訪問面会
- 2 Mさん訪問面会、ヤング・バドミントン練習
- 3 T氏面会、Mさん訪問面会、葉月さん、桃山氏交際1周年パーティー
- 4 八王子市社会福祉協議会訪問、Mさん「ぽっとスペース八王子」への交通費交渉（認可）
- 5 講演活動
- 6 大日向宏顧問事務所訪問
- 9 女性部泳ごう会
- 11 多岐川宅家庭訪問
- 13 ニュース印刷作業、女性部泳ごう会
- 14 討論会（手帳問題について）、多岐川さんの交通費について相談（認可）
- 16 「ぽっとスペース八王子」マス釣り大会
- 18 ニュース発送作業
- 19 ニュース発送作業、女性部泳ごう会
- 23 議案書討議
- 26 議案書討議
- 27 心と健康のフェスティバル検討会
- 28 北野台病院訪問、T氏訪問
- 29 「精神病者」多摩スポーツ交流祭
- 30 ヤング泳ごう会

来所者数 249名

電話相談数 286件

編集後記

総会が終わってぽっと一息ついたところです。でも、課題がはつきりしてきたということとそれができるということの間には目もくらむようなギャップがあります。

しかも、私たち「精神病者」の当事者がそれを行うわけですから、大変です。その大きな試みに怖じ気づいたりするのは当然です。でも、10「病氣」を理由に挑戦することから逃げたり、責任転嫁することだけはやめにしよう。自分自身の手で行う課題なのだから。逃げていれば何時までも自分のものになりません。

新しい事務所さがしに四苦八苦しています。不動産屋さんには理解ある方も少なくありませんが、問題は大家さんの方です。もう少し理解があればと思います。